

北海道浅井学園大学短期大学部2003年入学者の衣生活に関する意識調査

著者	北村 悦子, 辻 美恵子, 富田 玲子
雑誌名	北海道浅井学園大学短期大学部研究紀要
巻	42
ページ	39-56
発行年	2004-03-26
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00000800/

北海道浅井学園大学短期大学部2003年入学者の衣生活に関する意識調査

A Survey on Clothes Life of Students Admitted to Hokkaido Asai Gakuen College in 2003

北 村 悦 子	辻	美 恵 子	富 田 玲 子		
Etsuko	KITAMURA	Mieko	TSUJI	Reiko	TOMITA

I は じ め に

本調査は、北海道浅井学園大学短期大学部創立40周年を記念して、「本学入学生の意識、実態等に関する総合的調査」における「衣生活に関する意識調査」をテーマに30周年との比較を目的に調査研究を行った。

調査方法及び分析検討の結果については項目毎に記述するが、現代の若い女性の衣生活に関する意識と趣向が調査結果に現れた。

現代の情報化、多様化、個性化の社会環境において、あらゆる物が豊富な中で生活形態を賢く選択する必要性が求められる。

「衣生活」も10年という経過と共にそれぞれの形態や内容が異なってきたと思われ、そのことについての興味・関心度について本学短期大学部入学生を対象に調査を行ったので報告をする。なお、短期大学部は、「工芸美術学科」は2001年（平成13年）3月に廃止となり、また2003年（平成15年）4月より従来の服飾美術学科、保健体育学科、経営情報学科が統合され「人間総合学科」が開設された。短期大学部は「人間総合学科」と「初等教育学科」の二学科となり、また平成14年度からは男女共学になった。今回の調査は従来の学科を系に変更したものとして比較検討した。

II 調 査 方 法

調査対象は、平成15年度北海道浅井学園大学短期大学部入学生525名で、そのうち男子123名、女子402名で（回収率100%）、対象の構成は次の通りである。『人間総合学科』398名「服飾美術系（以下服飾とする）64名、スポーツ科学系（以下スポーツとする）154名、養護保健系（以下養護とする）80名、経営情報系（以下経情とする）56名、総合教養系（以下総合とする）44名」と『初等教育学科』127名である。

調査方法は、入学直後のオリエンテーション時に各科ごと、無記名式アンケート調査で、質問内容は男子にも対応できるように30周年に使用した項目に若干の変更を行い「衣」に対しての経費、選択、廃棄、着装形態、満足度、関心度、管理に関する25項目として実施した。

前回は「服飾美術学科」が、服飾美術コースと家庭科学コースの二コースであったが、今回は

それらをまとめた平均値で比較し、「工芸美術学科」は廃止されたので比較対象から除くこととした。

Ⅲ 結果および考察

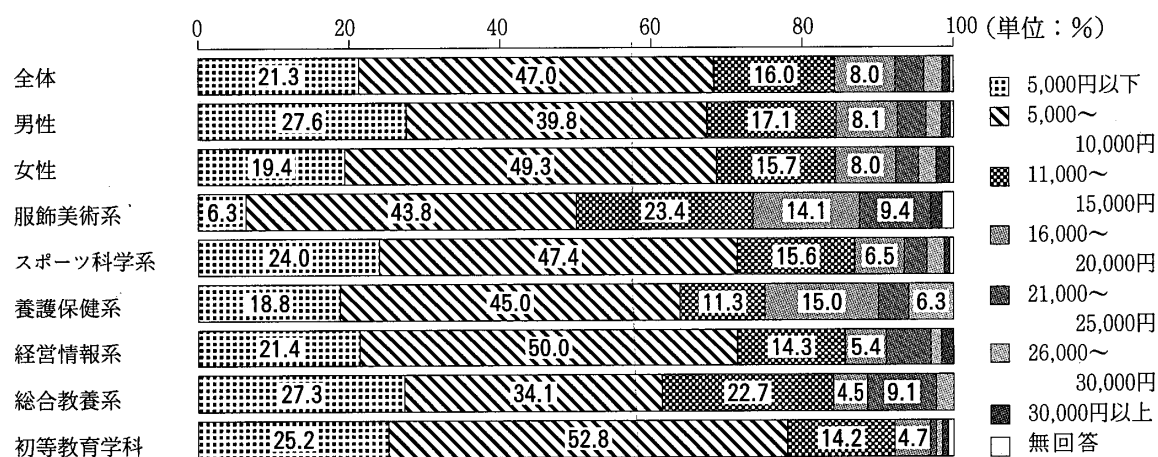
1. 衣服の経費関係

学生が衣服費として消費できる金額についての設問では、「あなたが1ヶ月に衣服費としてつかう金額はどのくらいですか」(図1)としたが、回答の結果は全体で見ると「5,000円～10,000円」が約半数の47.0%を占めている。次いで「5,000円以下」で21.3%となり、「11,000円～15,000円」が16.0%の順である。前回と比較すると「5,000円～10,000円」の金額についてはほぼ同じ数値を占めているが、2番目と3番目の金額は入れ替わっている。男子と女子を比較してみると、「5,000円～10,000円」の金額では、女子の方が9.5%多くなっている。

人間総合学科を系別に調べると、「5,000円以下」は総合が27.3%と一番多く、服飾は6.3%と少ない。これに対して全体的に高い数値を占めている「5,000円～10,000円」では、経情が50.0%と高く、初等も52.8%と高い数値を占めている。「11,000円～15,000円」では服飾が23.4%と他より高い数値である。また服飾の「21,000円～25,000円」の数値が9.4%と他に比べて高いのが特徴的で一ヶ月の衣服費に充てる割合が高い。前回では「5,000円以下」は養護が19.0%と多く、「5,000円～10,000円」では初等が56.4%と高く「11,000円～15,000円」では26.8%を示している。

次に、「あなたの衣服費はどこから支出しますか」(図2)の設問では、全体では「小遣いから出す」が40.2%で、次が「アルバイトの収入から出す」が35.0%の数値を占めていてアルバイト従事者が多いと思われる。「親が出す」は21.3%と少ない数値で、前回と比較すると現代の学生は自分の小遣いの中から購入している傾向が見られる。男子と女子では女子の方「親が出す」が3.4%高く、小遣いやアルバイトの収入を当てる数値は低くなっているところから、女子の方が親に依存していることが伺える。次に「衣服を購入する場合、衣服計画を立てて購

図1 衣服費



入しますか」(表1)の設問では、「予算を立てる」が全体51.2%で、前回より8.6%低い、男子は43.9%の者が予算を立てて、女子では53.5%となって女子の方が9.6%高く、その中でも服飾は59.4%で「衣」に対して計画性が最も高い傾向である。

2. 被服の購入時と選択

「あなたはどのような時に洋服を購入しましたか」(図3)の設問では「好きな服を見つけたとき」が全体で見ると40.2%で、「季節の変わり目」が31.8%、「着る目的ができたとき」19.2%と言う結果がでた。学科、系、性別においても同様の結果を示している。前回も「好きな服を見つけたとき」が35.9%と一番多く、変わりはないが、「着る目的ができたとき」26.4%、

表1 衣服計画

人(%)

項目	科・コース	全 体	男 性	女 性	服飾美術系	スポーツ科学系	養護保健系	経営情報系	総合教養系	初等教育学科
予算を立てる		269 (51.2)	54 (43.9)	215 (53.5)	38 (59.4)	72 (46.8)	46 (57.5)	25 (44.6)	16 (36.4)	72 (56.7)
予算を立てない		252 (48.0)	66 (53.7)	186 (46.3)	26 (40.6)	81 (52.6)	34 (42.5)	28 (50.0)	28 (63.6)	55 (43.3)
無回答		1 (0.2)	1 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
不明		3 (0.6)	2 (1.6)	1 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (5.4)	0 (0.0)	0 (0.0)
合計		525 (100.0)	123 (100.0)	402 (100.0)	64 (100.0)	154 (100.0)	80 (100.0)	56 (100.0)	44 (100.0)	127 (100.0)

図2 衣服費の支出

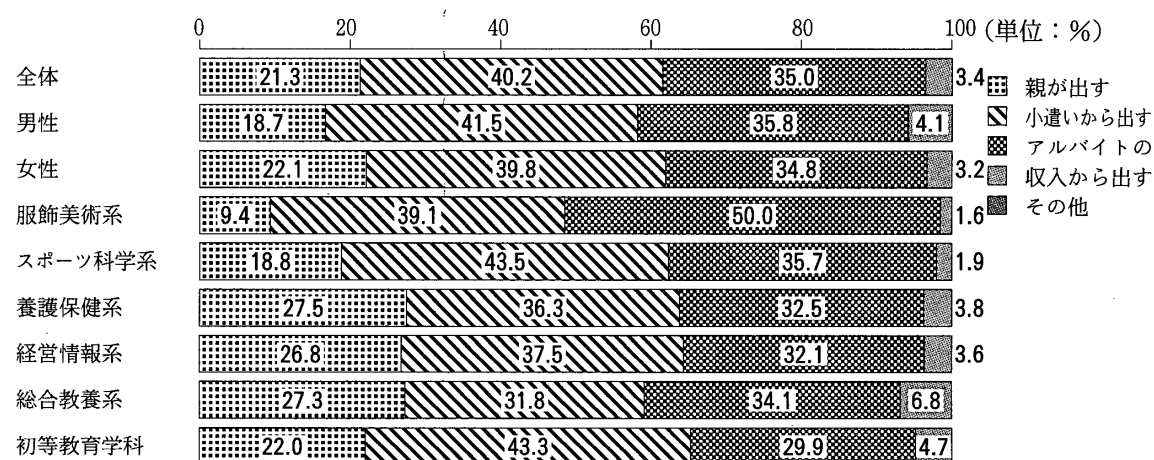
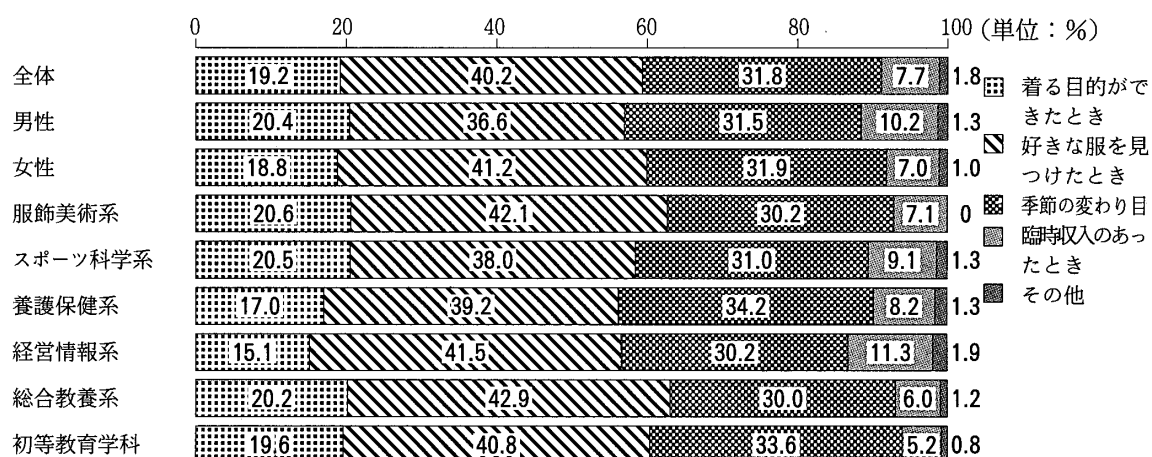


図3 洋服の購入動機



「季節の変わり目」25.9%で順位が入れ替わっている。マスメディアによる「季節を先取りしたPR」による影響も伺える。「あなたは洋服を購入するときどのようなことを基準に選びますか」(図4)の設問で、「好きなデザインだったので」が全体で39.0%、次いで「手持ちの洋服とのコーディネートを考えて」が32.1%を占めており、前回と順位は同じで数値においてもほぼ変化はない。「ブランド品だから」が3.3%と前回の1.9%より若干占める割合が上がったものの、購入基準としては低い結果を示している。これは経済的理由もあるが、ブランドに拘らずに、好みの服をコーディネートし、個性を表現する着装をしていると思われる。また「組成表示を重要視して」は0.4%と低い数値を示し、前回と同様に素材に対しての関心は低い。

3. 衣服の満足度と廃棄

衣服の所持数で満足度を調べてみると、「あなたは現在所持している衣服の数に満足していますか」(図5)の設問で、全体で見ると「満足していない」と答えたのが67.6%、「やや満足している」が28.0%、「満足している」が4.2%となり、前回と同様な結果を得ている。衣服に対しての満足の基準は限りないと思われる。着用不能になった衣服の扱いに関しては「着用できなくなった衣服をどう処分していますか」(図6)の設問に、「そのままとっておく」が

図4 洋服の購入基準

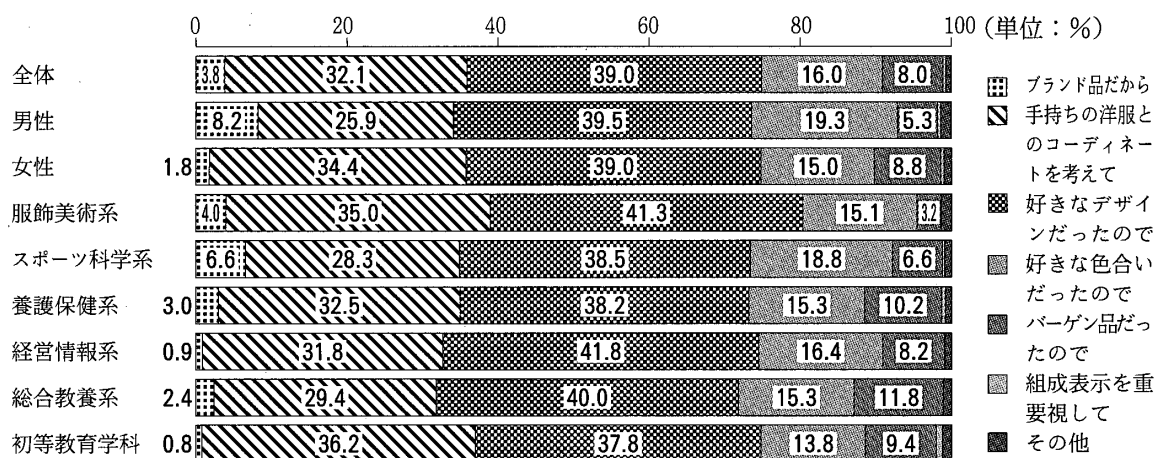
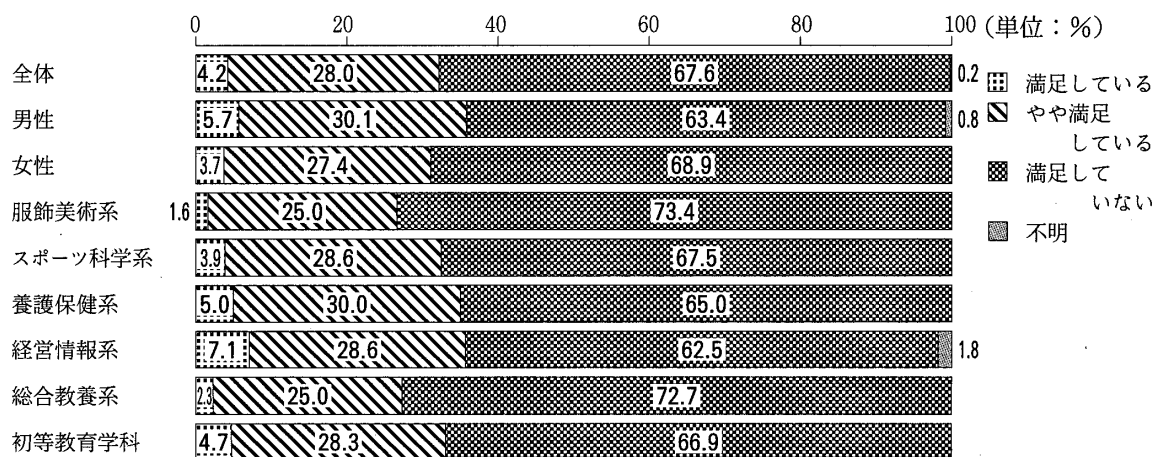


図5 衣服所持数の満足度



もっとも多く33.8%、「人にあげる」が29.9%、「捨てる」が20.0%である。前回においては、「人にあげる」35.1%、「そのままとっておく」が30.4%で順位が入れ替わっている。これは昨今、古着やリメイクファッション、重ね着によるコーディネートを楽しむ傾向にあることから、着用しなくなった衣服でも、いずれ活用することを考えていることと思われる。

「捨てる」については前回も20.0%で変化はない。また「リフォームして着用する」は全体的に見ると、3.8%で低い数値であるが、服飾では「リフォームをして着用する」「小物作りに活用する」を合わせると、他の学科、系よりも高い数値を示している。資源を再利用することの経済性や独自性、物づくりの嗜好などが一致していることと思われる。

4. 衣服の関心度

手作りの衣服に対しての設問で、「母親、あるいは身近な人から手作りの服を着せてもらったことがありますか」(表2)では、「ある」と答えたのが全体で55.8%である。前は全体で77.4%であり、服を手作りし子供に着用させている母親等が減少していることが伺える。性別

図6 着用不要の衣類処理

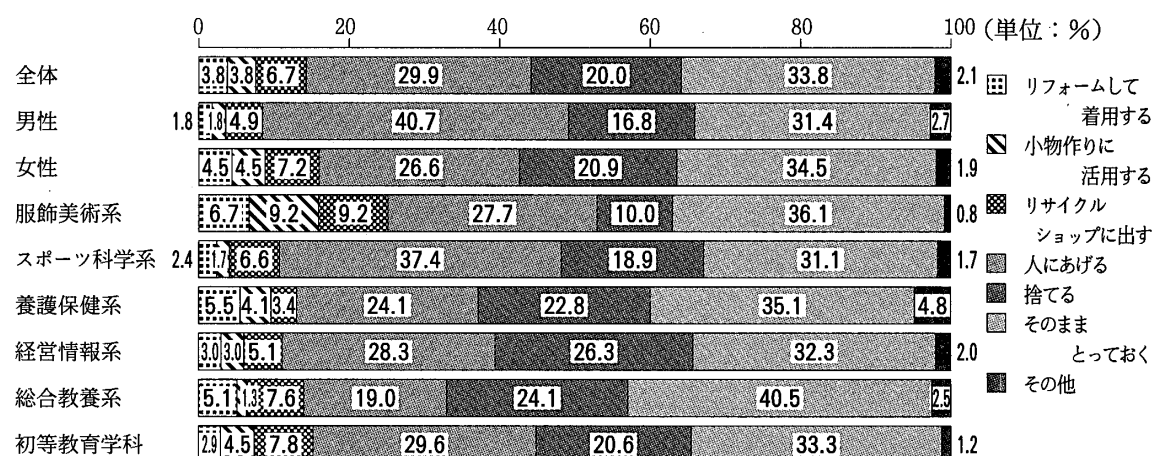


表2 手作り服の着用有無

人(%)

項目	科・コース	全	体	男	性	女	性	服飾美術系	ス	ポ	ー	ツ	科	学	系	養護保健系	経営情報系	総合教養系	初等教育学科
ある		293	(55.8)	34	(27.6)	259	(64.4)	44	(68.8)	52	(33.8)	58	(72.5)	30	(53.6)	26	(59.1)	83	(65.4)
ない		23	(4.0)	89	(72.4)	142	(35.3)	20	(31.3)	102	(66.2)	22	(27.5)	25	(44.6)	18	(40.9)	44	(34.6)
無回答		1	(0.2)	0	(0.0)	1	(0.2)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(1.8)	0	(0.0)	0	(0.0)
合計		525	(100.0)	123	(100.0)	402	(100.0)	64	(100.0)	154	(100.0)	80	(100.0)	56	(100.0)	44	(100.0)	127	(100.0)

表3 手作り服の着用願望

人(%)

項目	科・コース	全	体	男	性	女	性	服飾美術系	ス	ポ	ー	ツ	科	学	系	養護保健系	経営情報系	総合教養系	初等教育学科
着たかった		20	(8.7)	7	(7.9)	13	(9.2)	6	(30.0)	8	(7.8)	2	(9.1)	0	(0.0)	2	(11.1)	2	(4.5)
着たいと思わなかった		48	(20.8)	25	(28.1)	23	(16.2)	0	(0.0)	27	(26.5)	3	(13.6)	8	(32.0)	3	(16.7)	7	(15.9)
別に考えもしなかった		156	(67.5)	55	(61.8)	101	(71.1)	14	(70.0)	64	(62.7)	17	(77.3)	16	(64.0)	12	(66.7)	33	(75.0)
不明		7	(3.0)	2	(2.2)	5	(3.5)	0	(0.0)	3	(2.9)	0	(0.0)	1	(4.0)	1	(5.6)	2	(4.5)
合計		231	(100.0)	89	(100.0)	142	(100.0)	20	(100.0)	102	(100.0)	22	(100.0)	25	(100.0)	18	(100.0)	44	(100.0)

に比較すると男性27.6%，女性64.4%と圧倒的に女性の方が「手作りの服を着用」したことが分かる。前回は科別の比較をしてもあまり差がなかったが、今回の結果を科別、系別に見ると、養護72.5%，服飾68.8%，次いで初等の65.4%となっている。スポーツでは33.8%と低い数値を示しており、これは男性が他の系より多くいることと、嗜好する衣服、あるいは着用目的とするアイテムの相違から生じた結果と考えられる。「ない」と答えた者に、「あなたは手作りの服を着たいと思いましたか」（表3）では、「別に考えたこともなかった」が67.5%で、手作りの服を着ることについての関心度は低く、前回とほぼ結果は変わっていない、手作りの洋服よりデザインが豊富で簡単に手に入る既製服志向派が多いと思われる。

次に自分で衣服を製作することについて、「あなたは自分で衣服（ブラウス・スカート程度のもの）を製作できますか」（図7）の設問では、「できない」が全体で86.9%を占め、「できる」は13.0%である。女性のみでは「できない」84.6%、「できる」15.2%であり、前回の「できない」60.6%、「できる」39.0%よりかなり低い数値を示している。「できる」の服飾25.0%，総合20.5%は科別、系別の比較においては上位を示しているが、前回の服飾コース53.2%より低い数値を示している。

図7 衣服の製作状況

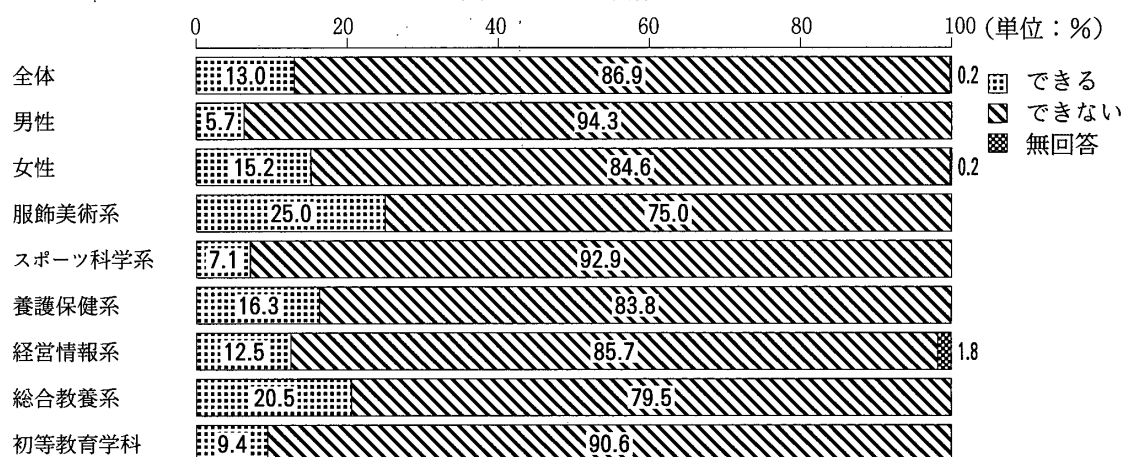
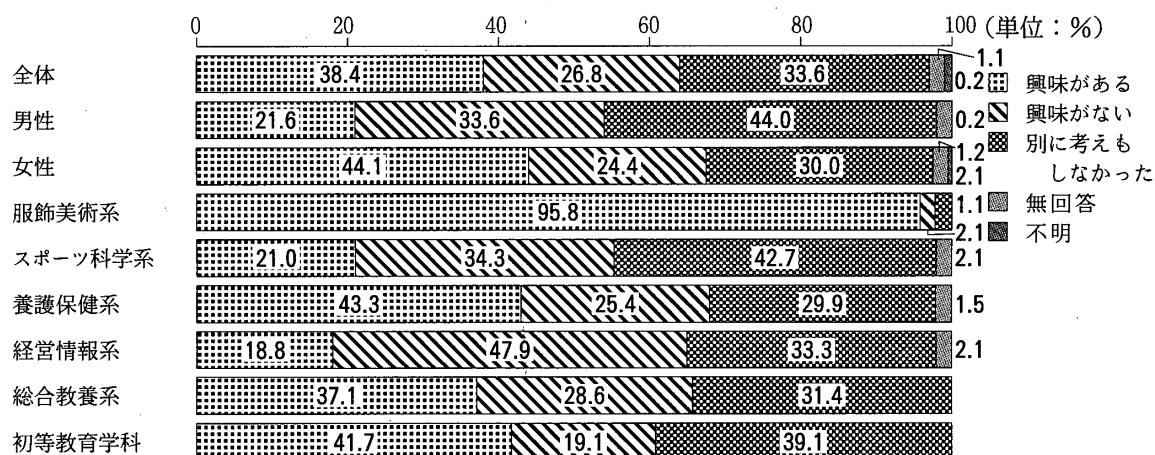


図8 衣服製作の関心度



上記の設問で「できない」と答えた者に、「製作をする事に興味はありますか」(図8)の設問をした結果、「興味がある」が全体38.4%で次が「考えたこともなかった」が33.6%である。科別、系別に比較すると「興味がある」では、服飾95.8%、とダントツに高く、前回の服飾コース90.3%と同様の結果が得られ、多くの学生が自分で衣服を製作してみたいと考えていることが伺える。次いで養護43.3%、初等41.7%となっている。それに対して、スポーツ21.0%、経情18.8%と数値が低く興味関心度は少ない。これも前回と同様の結果である。服飾に関する興味の度合いが数値となって表れていると思われる。

5. 衣服の着想形態

衣服の着想形態について、「あなたは日常どのようなスタイルの服装をしますか」(表4)の設問で、全体で見ると、「Tシャツ」78.3%、「トレーナー」63.4%と男女共に圧倒的に数値は高い結果が得られた。前回は「Tシャツ」29.3%、「トレーナー」24.9%、「ブラウス」22.5%、「セーター」16.9%と分散していた。バブル経済崩壊直後の1993年は一般の生活者にとって消費行動を変えるほどの影響は少なく、衣服費にける金額は、「11,000円～20,000円」が全体の32.2%であったのに対し、今回の調査では24.0%と低くなっていることから、安価で色彩のバリエーションも豊富な伸縮性のあるニットや軽く保温性や吸汗性に優れているフリースなどを好んで着用していると思われる。また「ジーパン」の着用比率(表5)も高く、前回は50%弱に対して、今回は女子学生のみを見ても全体でも94.1%と高い数値を示している。次いで、綿パンツ、スカートの順である。ジーパンは、カジュアルウエアとして男女問わず幅広い年

表4 日常の着装形態「上衣」

人(%)

項目	科・コース	全	体	男	性	女	性	服飾美術系	ス	ポ	ー	ツ	科	学	系	養護保健系	経営情報系	総合教養系	初等教育学科
トレーナー		333	(63.4)	98	(79.7)	235	(58.5)	28	(43.8)	127	(82.5)	46	(57.5)	30	(53.6)	27	(61.4)	75	(59.1)
セーター		67	(12.8)	6	(4.9)	61	(15.2)	9	(14.1)	7	(4.5)	17	(21.3)	8	(14.3)	3	(6.8)	23	(18.1)
ブラウス		82	(15.6)	3	(2.4)	79	(19.7)	21	(32.8)	5	(3.2)	19	(23.8)	9	(16.1)	7	(15.9)	21	(16.5)
Tシャツ		411	(78.3)	98	(79.7)	313	(77.9)	47	(73.4)	132	(85.7)	60	(75.0)	42	(75.0)	29	(65.9)	101	(79.5)
Yシャツ		64	(12.2)	21	(17.1)	43	(10.7)	13	(20.3)	20	(13.0)	8	(10.0)	8	(14.3)	4	(9.1)	11	(8.7)
その他		48	(9.1)	9	(7.3)	39	(9.7)	5	(7.8)	7	(4.5)	8	(10.0)	4	(7.1)	11	(25.0)	13	(10.2)
無回答		3	(0.6)	1	(0.8)	2	(0.5)	0	(0.0)	1	(0.6)	0	(0.0)	1	(1.8)	0	(0.0)	1	(0.8)
合計		525	(100.0)	123	(100.0)	402	(100.0)	64	(100.0)	154	(100.0)	80	(100.0)	56	(100.0)	44	(100.0)	127	(100.0)

表5 日常の着装形態「下衣」

人(%)

項目	科・コース	全	体	男	性	女	性	服飾美術系	ス	ポ	ー	ツ	科	学	系	養護保健系	経営情報系	総合教養系	初等教育学科
Gパン		494	(94.1)	111	(90.2)	383	(95.3)	59	(92.2)	143	(92.9)	76	(95.0)	52	(92.9)	41	(93.2)	123	(96.9)
ショートパンツ		64	(12.2)	35	(28.5)	29	(7.2)	4	(6.3)	39	(25.3)	8	(10.0)	4	(7.1)	4	(9.1)	5	(3.9)
キュロットスカート		3	(0.6)	1	(0.8)	2	(0.5)	1	(1.6)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(1.8)	0	(0.0)	1	(0.8)
スカート		169	(32.2)	1	(0.8)	168	(41.8)	34	(53.1)	14	(9.1)	34	(42.5)	27	(48.2)	14	(31.8)	46	(36.2)
綿パンツ		178	(33.9)	40	(32.5)	138	(34.3)	16	(25.0)	57	(37.0)	27	(33.8)	13	(23.2)	14	(31.8)	51	(40.2)
その他		38	(7.2)	18	(14.6)	20	(5.0)	4	(6.3)	19	(12.3)	4	(5.0)	1	(1.8)	6	(13.6)	4	(3.1)
無回答		3	(0.6)	1	(0.8)	2	(0.5)	0	(0.0)	1	(0.6)	0	(0.0)	1	(1.8)	0	(0.0)	1	(0.8)
合計		525	(100.0)	123	(100.0)	402	(100.0)	64	(100.0)	154	(100.0)	80	(100.0)	56	(100.0)	44	(100.0)	127	(100.0)

年齢層に着用されているが、最近は手の込んだ立体裁断のものや刺繍やパッチワークを施したり
 鉾を打ったりして見た目のおもしろさを強調したものなどが、若者にとって自分の着こなしを
 楽しむオシャレ着として広く愛用されていると思われる。

洋服を着るときの決定要因について「普段、着用する服装はどのようにして決めますか」
 (図9)の設問で、「その日の気分によって決める」が全体で33.6%、「出かける場所によって
 決める」が28.7%であった。前回は、「出かける場所によって決める」が34.5%と一番高く、
 今回の調査で女子学生のみを比較すると30%とほぼ近い数値であったが、男子学生については
 「その日の気分によって決める」が44.1%、「出かける場所によって決める」が25.8%と低い。
 また、女子学生は「その日の天候により」が20.4%、「前日に決めておく」が15.1%に対して、
 男子学生は「その日の天候により」が17.5%、「前日に決めておく」が3.1%と低い。これは男
 子学生よりも女子学生の方が、ファッションに対して興味・関心があり、T・P・Oを考慮し
 ていることが伺われた。

ナイトウェアの種類について、「あなたのナイトウェアはどのようなものですか」(表6)
 の設問で、「パジャマ」は37.7%、「ショートパンツとTシャツ」が35.8%と分散されている。
 養護・初等は約50%がパジャマを着用しているが、スポーツは「ショートパンツとTシャツ」

図9 普段の服装

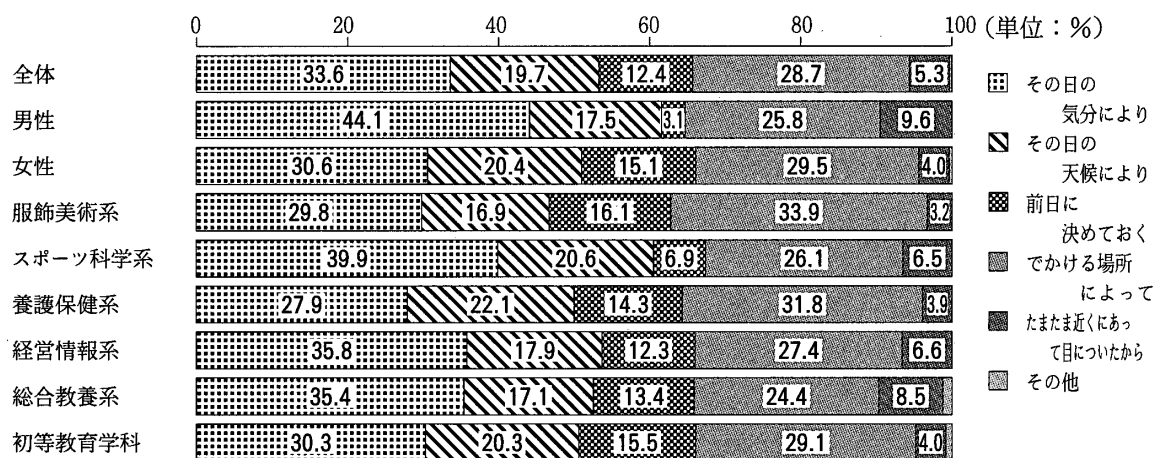


表6 ナイトウェアの種類

人(%)

項目	科・コース		全	体	男	性	女	性	服飾美術系	ス ポー ツ 科 学 系	養護保健系	経営情報系	総合教養系	初 等 教 育 学 科				
パジャマ	198	(37.7)	21	(17.1)	177	(44.0)	24	(37.5)	38	(24.7)	40	(50.0)	20	(35.7)	17	(38.6)	59	(46.5)
ネグリジェ	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
スウェット・スーツ	76	(14.5)	21	(17.1)	55	(13.7)	10	(15.6)	36	(23.4)	6	(7.5)	4	(7.1)	7	(15.9)	13	(10.2)
ゆかた	2	(0.4)	1	(0.8)	1	(0.2)	1	(1.6)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(0.8)
ショートパンツとTシャツ	188	(35.8)	63	(51.2)	125	(31.1)	24	(37.5)	63	(40.9)	23	(28.8)	21	(37.5)	15	(34.1)	42	(33.1)
その他	57	(10.9)	17	(13.8)	40	(10.0)	5	(7.8)	15	(9.7)	11	(13.8)	11	(19.6)	3	(6.8)	12	(9.4)
無回答	4	(0.8)	0	(0.0)	4	(1.0)	0	(0.0)	2	(1.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(4.5)	0	(0.0)
合計	525	(100.0)	123	(100.0)	402	(100.0)	64	(100.0)	154	(100.0)	80	(100.0)	56	(100.0)	44	(100.0)	127	(100.0)

が40%以上と最も多く、次いで「パジャマ」、「スウェットスーツ」に分散されている。前回は「パジャマ」が全体で93.9%と高い数値を示していたことから、ナイトウェアにおいても、軽くてソフトでなめらかな動きやすい伸縮性のあるパンツスタイルが好まれていると思われる。

下着の着装では、「普段、着用している下着を選んでください」の設問では、前回同様、女子学生のみを見ると夏(表7)は「ショーツ」と「ブラジャー」の組み合わせが、ほぼ100%であった。次に「シャツ」が13.4%、「スリッパ」3.0%、「ガードル」6.2%という結果であった。

冬(表8)になると基本的には夏と同様であるが、「シャツ」は23.6%、「ガードル」は8.5

表7 下着の着装形態「夏」

重複回答・人(%)

科・コース 項目	全 体 n=525	男 性 n=123	女 性 n=402	服飾美術系 n=64	ス ポ ー ツ 科 学 系 n=154	養護保健系 n=80	経営情報系 n=56	総合教養系 n=44	初 等 教 育 学 科 n=127
パンティ	390 (74.3)	—	390 (97.0)	58 (90.6)	65 (42.2)	76 (95.0)	43 (76.8)	34 (77.3)	114 (89.8)
ブラジャー	382 (72.8)	—	382 (95.0)	57 (89.1)	63 (40.9)	75 (93.8)	41 (73.2)	33 (75.0)	113 (89.0)
スリッパ	12 (2.3)	—	12 (3.0)	5 (7.8)	4 (2.6)	2 (2.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.8)
シャツ	67 (12.8)	13 (10.6)	54 (13.4)	12 (18.8)	21 (13.6)	10 (12.5)	6 (10.7)	4 (9.1)	14 (11.0)
ガードル	25 (4.8)	—	25 (6.2)	4 (6.3)	7 (4.5)	5 (6.3)	1 (1.8)	0 (0.0)	8 (6.3)
ベティコート	11 (2.1)	—	11 (2.7)	4 (6.3)	3 (1.9)	1 (1.3)	0 (0.0)	1 (2.3)	2 (1.6)
キャミソール	162 (30.9)	—	162 (40.3)	31 (48.4)	18 (11.7)	37 (46.3)	7 (12.5)	13 (29.5)	56 (44.1)
フレアーパンツ	20 (3.8)	1 (0.8)	19 (4.7)	8 (12.5)	6 (3.9)	1 (1.3)	2 (3.6)	1 (2.3)	2 (1.6)
ボディースーツ	10 (1.9)	2 (1.6)	8 (2.0)	0 (0.0)	8 (5.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.3)	1 (0.8)
トランクス	118 (22.5)	112 (91.1)	6 (1.5)	9 (14.1)	83 (53.9)	3 (3.8)	6 (10.7)	6 (13.6)	11 (8.7)
ブリーフ	5 (1.0)	3 (2.4)	2 (0.5)	2 (3.1)	3 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
Tシャツ	177 (33.7)	88 (71.5)	89 (22.1)	21 (32.8)	79 (51.3)	20 (25.0)	13 (23.2)	12 (27.3)	32 (25.2)
ランニングシャツ	25 (4.8)	10 (8.1)	15 (3.7)	6 (9.4)	10 (6.5)	4 (5.0)	1 (1.8)	1 (2.3)	3 (2.4)
その他	8 (1.5)	4 (3.3)	4 (1.0)	1 (1.6)	2 (1.3)	3 (3.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.6)
無回答	16 (3.0)	7 (5.7)	9 (2.2)	0 (0.0)	4 (2.6)	1 (1.3)	7 (12.5)	2 (4.5)	2 (1.6)

表8 下着の着装形態「冬」

重複回答・人(%)

科・コース 項目	全 体 n=525	男 性 n=123	女 性 n=402	服飾美術系 n=64	ス ポ ー ツ 科 学 系 n=154	養護保健系 n=80	経営情報系 n=56	総合教養系 n=44	初 等 教 育 学 科 n=127
パンティ	385 (73.3)	—	385 (95.8)	56 (87.5)	64 (41.6)	76 (95.0)	43 (76.8)	34 (77.3)	112 (88.2)
ブラジャー	380 (72.4)	—	380 (94.5)	56 (87.5)	62 (40.3)	75 (93.8)	42 (75.0)	32 (72.7)	113 (89.0)
スリッパ	10 (1.9)	—	10 (2.5)	4 (6.3)	4 (2.6)	1 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.8)
シャツ	107 (20.4)	12 (9.8)	95 (23.6)	23 (35.9)	25 (16.2)	20 (25.0)	9 (16.1)	6 (13.6)	24 (18.9)
ガードル	34 (6.5)	—	34 (8.5)	9 (14.1)	6 (3.9)	7 (8.8)	1 (1.8)	0 (0.0)	11 (8.7)
ベティコート	20 (3.8)	—	20 (5.0)	6 (9.4)	5 (3.2)	0 (0.0)	1 (1.8)	1 (2.3)	7 (5.5)
キャミソール	224 (42.7)	—	224 (55.7)	42 (65.6)	34 (22.1)	43 (53.8)	18 (32.1)	18 (40.9)	69 (54.3)
フレアーパンツ	18 (3.4)	1 (0.8)	17 (4.2)	6 (9.4)	6 (3.9)	1 (1.3)	2 (3.6)	1 (2.3)	2 (1.6)
ボディースーツ	8 (1.5)	2 (1.6)	6 (1.5)	0 (0.0)	8 (5.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
トランクス	117 (22.3)	111 (90.2)	6 (1.5)	9 (14.1)	83 (53.9)	3 (3.8)	5 (8.9)	6 (13.6)	11 (8.7)
ブリーフ	6 (1.1)	4 (3.3)	2 (0.5)	2 (3.1)	4 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
Tシャツ	176 (33.5)	87 (70.7)	89 (22.1)	18 (28.1)	77 (50.0)	19 (23.8)	11 (19.6)	11 (25.0)	40 (31.5)
ランニングシャツ	26 (5.0)	10 (8.1)	16 (4.0)	5 (7.8)	12 (7.8)	4 (5.0)	1 (1.8)	1 (2.3)	3 (2.4)
その他	16 (3.0)	5 (4.1)	11 (2.7)	3 (4.7)	5 (3.2)	3 (3.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (3.9)
無回答	23 (4.4)	10 (8.1)	13 (3.2)	1 (1.6)	7 (4.5)	1 (1.3)	8 (14.3)	3 (6.8)	3 (2.4)

%と着用率が低い結果となった。前回の夏は「シャツ」は40%以上、「スリッパ」は、ほぼ30%、「ガードル」は、ほぼ40%、前回の冬は「シャツ」は60%、「ガードル」は50%着用していた。「キャミソール」は55.7%と前回よりも高い。このことからシャツ、スリッパの代わりにTシャツを着用し、ガードルの代わりにキャミソールを着用している傾向が見受けられた。「ボディースーツ」の着用率は、各学科平均して16.0%に対し、今回はスポーツの1.5%のみと低い。下着はボディーの矯正、あるいは洋服のシルエットをきれいに表現したり、汗などを吸収して皮膚を清潔に保つなど、衣の中でも着装の基本となるものであるが、「ガードル」「ボディースーツ」とも着用率が低いのは、締めつけることの不快感や身体の動きを妨げないで、リラックスできる装いが好まれているものと思われる。

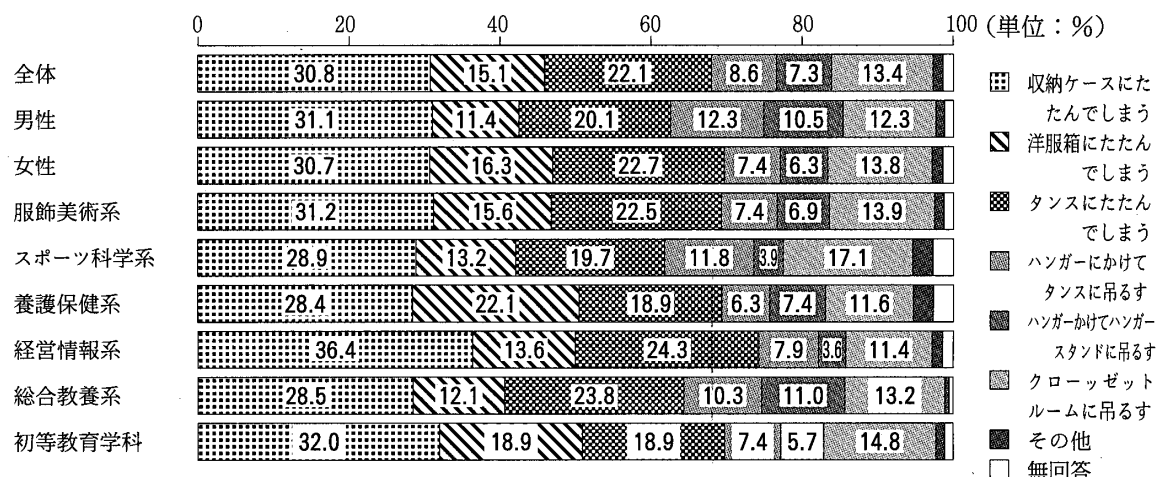
6. 衣服の管理

衣生活を快適にする上で、衣類の整理、保管は欠かせない行為である。効率よく適切になされているかについて、「あなたは季節によって着用しない洋服は、どのように整理・保管していますか」(図10)の設問では、「収納ケースにたたんでしまう」が全体で30.8%と最も多く、次は、「タンスにたたんでしまう」で22.1%以上の数値が示された。前回同様、ハンガーを使用するものが少ないことは、建物の構造、設備がよくなったことと冷暖房の充実に伴い、シーズンレスとなり、タンスの中の内容も変える必要がないように考えられる。また、自炊・寮の学生も40%近くいることから、限られている部屋の広さを考慮しているものと思われる。

「あなたは衣服の点検、修理をしますか」(図11)の設問では、「気が向いたらする」が全体で25.9%、「随時見つけたときにする」が17.9%、「しない」と答えた者が24.1%に対して、前回は「随時見つけたときにする」が全体で31.1%、「気が向いたらする」が23.6%、「しない」と答えた者が12.4%であった。これは、男子学生が増えたことも上げられるが、修理は家族のものがするものと思われる。

衣に関わることで一番必要に迫られるのは洗濯であるが、「あなたは幾つぐらいから自分で洗濯をするようになりましたか」(図12)の設問では、系別に見ると中学生までに自分で洗濯

図10 服装の保管方法



をすると答えたものは、養護が48.9%と一番高く次いでスポーツが38.3%、初等が34.6%であった。全体では、「中学生から」が37.8%、「高校生から」が21.5%に対して、今回の調査によると「中学生から」が23.0%、「高校生から」が20.2%と低い数値である。女子学生のみを見ても今回は「中学生から」が24.6%、「高校生から」が21.6%と同様に低い。また「短大に入ってから」が13.1%と入学した時点から洗濯を始めた者もいる。表9のように自宅からの通学率を見ると、58.1%に対して、前回は53.6%とあまり差は見られなかった。洗濯時期について、「小学生・中学生から」が60%近くいたのに対して今回は36%と低いことや「洗濯をしない」と答えたものが9.6%に対して今回は24.6%と前回よりも3倍近く高い。生活環境を見ると自宅から通学しているもののうち、44.9%が「しない」と答えていることから、全体の2割以上は家族に依存していると判断できる。

「衣類のほつれやボタンつけは幾つくらいからしていますか」(表10)では、「中学生から」が32.0%、「小学生高学年から」は25.0%に対して、前回は「小学生高学年から」で48.8%、「中学生から」が34.9%と前回よりも20%以上も低い。「しない」の項目では21.9%に対して、前回は2.6%と10倍近く高い。これは、中学校、高等学校の家庭分野において、衣服を作る時

図11 衣服の点検・修理

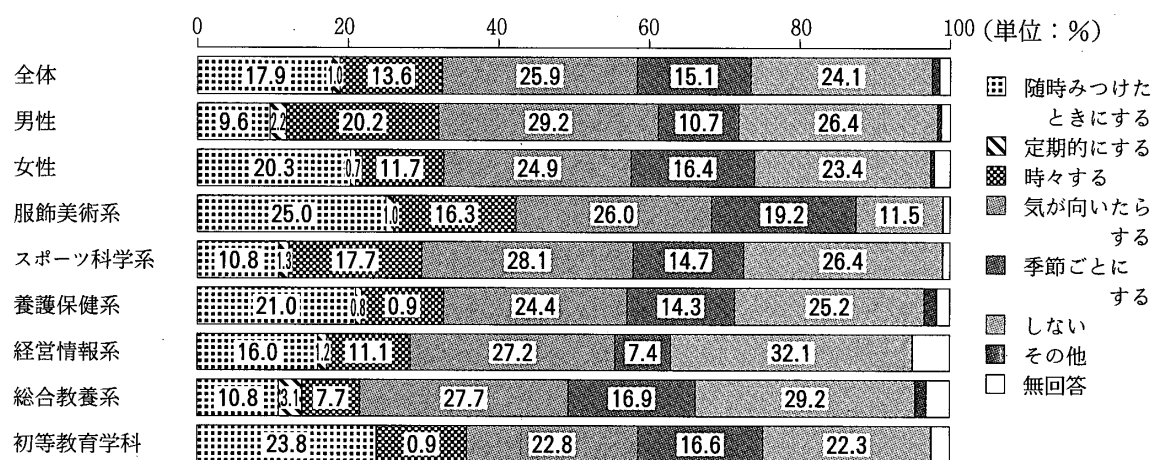
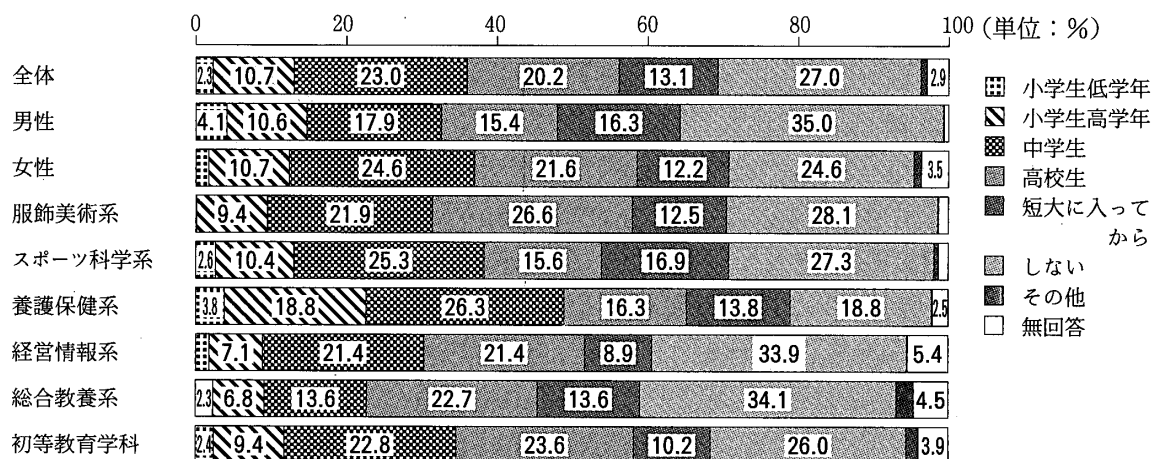


図12 洗濯の開始時間



間は必ずしも多くはなく、ものづくりに対しての興味・関心が少なくなっていることも影響していると思われ、衣類のほつれやボタンつけはしない若者が増えている。環境別に見ると表11のとおり、自宅通学が28.9%と高い数値であった。

「あなたはアイロンを幾つくらいから掛けるようになりましたか」(表12)を見ると、「小学生高学年から」が28.6%、「中学生から」が31.1%と中学生までにアイロンをかけているものは67.3%であった。前は「小学校高学年から」が40.1%、「中学生から」が40%と全体の90

表9 洗濯の開始時間(自宅・療・自炊別)

下段%

科・コース	全 体				服飾美術系				スポーツ科学系				養護保健系				経営情報系				総合教養系				初等教育学科			
生活環境	525 (100.0)				64 (100.0)				154 (100.0)				80 (100.0)				56 (100.0)				44 (100.0)				127 (100.0)			
項目	自 宅	療	自 炊	無回答	自 宅	療	自 炊	無回答	自 宅	療	自 炊	無回答	自 宅	療	自 炊	無回答	自 宅	療	自 炊	無回答	自 宅	療	自 炊	無回答	自 宅	療	自 炊	無回答
	305	40	168	12	38	3	23	0	82	15	55	2	38	8	29	5	41	3	10	2	29	4	9	2	77	7	42	1
	58.1	7.6	32.0	2.3	59.4	4.7	35.9	0.0	53.2	9.7	35.7	1.3	47.5	10.0	36.3	6.3	73.2	5.4	17.9	3.6	65.9	9.1	20.5	4.5	60.6	5.5	33.1	0.8
小学校低学年	8	1	3	—	—	—	—	—	3	—	1	—	1	1	1	—	1	—	—	—	1	—	—	—	2	—	1	—
	2.6	2.5	1.8	—	—	—	—	—	3.7	—	1.8	—	2.6	12.5	3.4	—	2.4	—	—	—	3.4	—	—	—	2.6	—	2.4	—
小学校高学年	27	5	20	4	3	1	2	—	9	1	5	1	7	1	5	2	2	1	1	—	1	—	1	1	5	1	6	—
	8.9	12.5	11.9	33.3	7.9	33.3	8.7	—	11.0	6.7	9.1	50.0	18.4	12.5	17.2	40.0	4.9	33.3	10.0	—	3.4	—	11.1	50.0	6.5	14.3	14.3	—
中学生	68	10	41	2	7	—	7	—	20	4	15	—	11	1	8	1	8	2	2	—	5	—	1	—	17	3	8	1
	22.3	25.0	24.4	16.7	18.4	—	30.4	—	24.4	26.7	27.3	—	28.9	12.5	27.6	20.0	19.5	66.7	20.0	—	17.2	—	11.1	—	22.1	42.9	19.0	100.0
高校生	48	6	49	3	9	—	8	—	5	3	15	1	4	2	5	2	9	—	3	—	7	—	3	—	14	1	15	—
	15.7	15.0	29.2	25.0	23.7	—	34.8	—	6.1	20.0	27.3	50.0	10.5	25.0	17.2	40.0	22.0	—	30.0	—	24.1	—	33.3	—	18.2	14.3	35.7	—
短大に入ってから	4	15	49	1	2	1	5	—	1	7	18	—	—	3	8	—	1	—	3	1	—	2	4	—	—	2	11	—
	1.3	37.5	29.2	8.3	5.3	33.3	21.7	—	1.2	46.7	32.7	—	—	37.5	27.6	—	2.4	—	30.0	50.0	—	50.0	44.4	—	—	28.6	26.2	—
しない	137	1	2	2	17	1	—	—	41	—	1	—	14	—	1	—	18	—	—	1	14	—	—	1	33	—	—	—
	44.9	2.5	1.2	16.7	44.7	33.3	—	—	50.0	—	1.8	—	36.8	—	3.4	—	43.9	—	—	50.0	48.3	—	—	50.0	42.9	—	—	—
その他	4	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	2	—	—	—
	1.3	—	—	—	—	—	—	—	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.4	—	—	—	2.6	—	—	—
無回答	9	2	4	—	—	—	1	—	2	—	—	—	1	—	1	—	2	—	1	—	—	2	—	—	4	—	1	—
	3.0	5.0	42.4	—	—	—	4.3	—	2.4	—	—	—	2.6	—	3.4	—	4.9	—	10.0	—	—	50.0	—	—	5.2	—	2.4	—
環境による合計	305	40	168	12	38	3	23	0	82	15	55	2	38	8	29	5	41	3	10	2	29	4	9	2	77	7	42	1
自宅・療・自炊別	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表10 衣服の修繕開始時期

人(%)

科・コース	全 体	男 性	女 性	服飾美術系	ス ポ ー ツ 科 学 系	養護保健系	経営情報系	総合教養系	初 等 教 育 学 科
小学生低学年	22 (4.2)	6 (4.9)	16 (4.0)	1 (1.6)	5 (3.2)	6 (7.5)	2 (3.6)	4 (9.1)	4 (3.1)
小学生高学年	131 (25.0)	20 (16.3)	111 (27.6)	17 (26.6)	31 (20.1)	32 (40.0)	12 (21.4)	9 (20.5)	30 (23.6)
中学生	168 (32.0)	24 (19.5)	144 (35.8)	23 (35.9)	44 (28.6)	27 (33.8)	21 (37.5)	12 (27.3)	41 (32.3)
高校生	60 (11.4)	20 (16.3)	40 (10.0)	14 (21.9)	14 (9.1)	3 (3.8)	5 (8.9)	5 (11.4)	19 (15.0)
短大に入ってから	11 (2.1)	6 (4.9)	5 (1.2)	1 (1.6)	8 (5.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.3)	1 (0.8)
しない	115 (21.9)	46 (37.4)	69 (17.2)	7 (10.9)	50 (32.5)	10 (12.5)	13 (23.2)	11 (25.0)	24 (18.9)
その他	3 (0.6)	0 (0.0)	3 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.4)
無回答	15 (2.9)	1 (0.8)	14 (3.5)	1 (1.6)	2 (1.3)	2 (2.5)	3 (5.4)	2 (4.5)	5 (3.9)
合計	525 (100.0)	123 (100.0)	402 (100.0)	64 (100.0)	154 (100.0)	80 (100.0)	56 (100.0)	44 (100.0)	127 (100.0)

%近くは中学生までにアイロンをかけている結果から見ると今回は20%以上低い数値であった。

環境別の資料(表13)のとおり、自宅通学の28.2%が「しない」と答えている。また、「現在どのようなものを自宅で掛けていますか」(図13)では、「ハンカチ程度のもの」が59.4%、「ブラウス類」が66.3%、「パンツ類」24%、「スカート類」28.8%であったが、前回は「ハンカチ程度のもの」が全体で93.4%、「ブラウス類」が91.2%と高い数値を占め、「パンツ類」で61.4%、「スカート類」は55.6%であり、アイテム別に見ても今回は、20%~30%低い結果で

表11 衣服の修繕開始時期(自宅・寮・自炊別)

下段%

科・コース	全 体				服飾美術系				スポーツ科学系				養護保健系				経営情報系				総合教養系				初等教育学科			
生活環境	525 (100.0)				64 (100.0)				154 (100.0)				80 (100.0)				56 (100.0)				44 (100.0)				127 (100.0)			
項目	自宅	寮	自炊	無回答	自宅	寮	自炊	無回答	自宅	寮	自炊	無回答	自宅	寮	自炊	無回答	自宅	寮	自炊	無回答	自宅	寮	自炊	無回答	自宅	寮	自炊	無回答
	305	40	168	12	38	3	23	0	82	15	55	2	38	8	29	5	41	3	10	2	29	4	9	2	77	7	42	1
	58.1	7.6	32.0	2.3	59.4	4.7	35.9	0.0	53.2	9.7	35.7	1.3	47.5	10.0	36.3	6.3	73.2	5.4	17.9	3.6	65.9	9.1	20.5	4.5	60.6	5.5	33.1	0.8
小学校低学年	13	2	7	0	1	0	0	0	3	0	2	0	2	2	2	0	1	0	1	0	4	0	0	0	2	0	2	0
	4.3	5.0	4.2	0	2.6	0	0	0	3.7	0	3.6	0	5.3	25.0	6.9	0	2.4	0	10.0	0	13.8	0	0	0	2.6	0	4.8	0
小学校高学年	70	9	47	5	8	1	8	0	13	3	14	1	18	1	9	4	8	2	2	0	5	2	2	0	18	0	12	0
	23.0	22.5	28.0	41.7	21.1	33.3	34.8	0	20.0	20.1	25.5	50.0	47.4	12.5	31.0	80.0	19.5	66.7	20.0	0	17.2	50.0	22.2	0	23.4	0	28.6	0
中学生	88	11	65	4	13	2	8	0	25	3	16	0	9	2	15	1	14	0	6	1	7	0	4	1	20	4	16	1
	28.9	27.5	38.7	33.3	34.2	66.7	34.8	0	30.5	20.0	29.1	0	23.7	25.0	51.7	20.0	34.1	0	60.0	50.0	24.1	0	44.4	50.0	26.0	57.1	38.1	100.0
高校生	32	3	24	1	8	0	6	0	3	1	9	1	2	0	1	0	5	0	0	0	5	0	0	0	9	2	8	0
	10.5	7.5	14.3	8.3	21.1	0	26.1	0	3.7	6.7	16.4	50.0	5.3	0	3.4	0	12.2	0	0	0	17.2	0	0	0	11.7	28.6	19.0	0
短大に入ってから	2	3	6	0	1	0	0	0	1	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	0.7	7.5	3.6	0	2.6	0	0	0	1.2	20.0	7.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11.1	0	0	0	2.4	0
しない	88	10	15	2	7	0	0	0	35	5	10	0	6	3	1	0	11	1	0	1	8	0	2	1	21	1	2	0
	28.9	25.0	8.9	16.7	18.4	0	0	0	42.7	33.3	18.2	0	15.8	37.5	3.4	0	26.8	33.3	0	50.0	27.6	0	22.2	50.0	27.3	14.3	4.8	0
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.9	0	0	0
無回答	9	2	4	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	1	0	2	0	1	0	0	2	0	0	4	0	1	0
	3.0	5.0	2.4	0	0	0	4.3	0	2.4	0	0	0	2.6	0	3.4	0	4.9	0	10.0	0	0	50.0	0	0	5.2	0	2.40	
環境による合計	305	40	168	12	38	3	23	0	82	15	55	2	38	8	29	5	41	3	10	2	29	4	9	2	77	7	42	1
自宅・寮・自炊別	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表12 アイロン掛けの開始時期

人(%)

科・コース	全 体	男 性	女 性	服飾美術系	ス ポ ー ツ 科 学 系	養護保健系	経営情報系	総合教養系	初 等 教 育 学 科
小学生低学年	34 (6.5)	4 (3.3)	30 (7.5)	5 (7.8)	6 (3.9)	7 (8.8)	1 (1.8)	3 (6.8)	12 (9.4)
小学生高学年	137 (26.1)	22 (17.9)	115 (28.6)	17 (26.6)	33 (21.4)	32 (40.0)	18 (32.1)	11 (25.0)	26 (20.5)
中学生	152 (29.0)	27 (22.0)	125 (31.1)	23 (35.9)	40 (26.0)	23 (28.8)	13 (23.2)	11 (25.0)	42 (33.1)
高校生	51 (9.7)	12 (9.8)	39 (9.7)	8 (12.5)	13 (8.4)	7 (8.8)	7 (12.5)	4 (9.1)	12 (9.4)
短大に入ってから	17 (3.2)	6 (4.9)	11 (2.7)	3 (4.7)	7 (4.5)	1 (1.3)	1 (1.8)	1 (2.3)	4 (3.1)
しない	116 (22.1)	51 (41.5)	65 (16.2)	7 (10.9)	53 (34.4)	8 (10.0)	13 (23.2)	11 (25.0)	24 (18.9)
その他	3 (0.6)	0 (0.0)	3 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.3)	2 (1.6)
無回答	15 (2.9)	1 (0.8)	14 (3.5)	1 (1.6)	5 (1.3)	2 (2.5)	3 (5.4)	2 (4.5)	5 (3.9)
合計	525 (100.0)	123 (100.0)	402 (100.0)	64 (100.0)	154 (100.0)	80 (100.0)	56 (100.0)	44 (100.0)	127 (100.0)

あった。また、今回はアイテム別に比較したところ、系別には、あまり差は見られなかったが、今回の調査によると、服飾の学生は他系に比べるとアイロンをかけている頻度は高い結果が得られた。

表13 アイロン掛けの開始時間（自宅・療・自炊別）

下段%

科・コース	全 体				服飾美術系				スポーツ科学系				養護保健系				経営情報系				総合教養系				初等教育学科			
生活環境	525 (100.0)				64 (100.0)				154 (100.0)				80 (100.0)				56 (100.0)				44 (100.0)				127 (100.0)			
	自 宅	療	自 炊	無 回答	自 宅	療	自 炊	無 回答	自 宅	療	自 炊	無 回答	自 宅	療	自 炊	無 回答	自 宅	療	自 炊	無 回答	自 宅	療	自 炊	無 回答	自 宅	療	自 炊	無 回答
	305	40	168	12	38	3	23	0	82	15	55	2	38	8	29	5	41	3	10	2	29	4	9	2	77	7	42	1
	58.1	7.6	32.0	2.3	59.4	4.7	35.9	0.0	53.2	9.7	35.7	1.3	47.5	10.0	36.3	6.3	73.2	5.4	17.9	3.6	65.9	9.1	20.5	4.5	60.6	5.5	33.1	0.8
項目																												
小学校 低学年	27	2	4	1	5	—	—	—	5	1	—	—	4	1	1	1	1	—	—	—	3	—	—	—	9	—	3	—
	8.9	5.0	2.4	8.3	13.2	—	—	—	13.2	2.6	—	—	10.5	2.6	2.6	2.6	2.6	—	—	—	7.9	—	—	—	23.7	—	7.9	—
小学校 高学年	73	10	51	3	7	2	8	—	16	3	13	1	15	2	13	2	11	2	5	—	8	1	2	—	16	—	10	—
	23.9	25.0	30.4	25.0	18.4	5.3	21.1	—	42.1	7.9	34.2	2.6	39.5	5.3	34.2	5.3	28.9	5.3	13.2	—	21.1	2.6	5.3	—	42.1	—	26.3	—
中学生	79	16	54	3	16	1	6	—	20	4	16	—	8	3	10	2	10	1	2	—	5	1	4	1	20	6	16	—
	25.9	40.0	32.1	25.0	42.1	2.6	15.8	—	52.6	10.5	42.1	—	21.1	7.9	26.3	5.3	26.3	2.6	5.3	—	13.2	2.6	10.5	2.6	52.6	15.8	42.1	—
高校生	25	3	21	2	3	—	5	—	3	1	9	—	4	2	1	—	5	—	1	1	3	—	1	—	7	—	4	1
	8.2	7.5	12.5	16.7	7.9	—	13.2	—	7.9	2.6	23.7	—	10.5	5.3	2.6	—	13.2	—	2.6	2.6	7.9	—	2.6	—	18.4	—	10.5	2.6
短大に 入ってから	3	2	12		2	—	1	—	1	1	5	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—	1	3	—
	1.0	5.0	7.1		5.3	—	2.6	—	2.6	2.6	13.2	—	—	—	2.6	—	—	—	2.6	—	—	—	2.6	—	—	2.6	7.9	—
しない	86	5	22	3	5	—	2	—	35	5	12	1	6	—	2	—	12	—	—	1	9	—	1	1	19	—	5	—
	28.2	12.5	13.1	25.0	13.2	—	5.3	—	92.1	13.2	31.6	2.6	15.8	—	5.3	—	31.6	—	—	2.6	23.7	—	2.6	2.6	50.0	—	13.2	—
その他	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	2	—	—	—
	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.6	—	—	—	5.3	—	—	—
無回答	9	2	4	—	—	—	1	—	2	—	—	—	1	—	1	—	2	—	1	—	—	2	—	—	4	—	1	—
	23.7	5.3	10.5	—	—	—	2.6	—	5.3	—	—	—	2.6	—	2.6	—	5.3	—	2.6	—	—	5.3	—	—	10.5	—	2.6	—
環境による 合計	305	40	168	12	38	3	23	0	82	15	55	2	38	8	29	5	41	3	10	2	29	4	9	2	77	7	42	1
自宅・療・ 自炊別	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表14 ゆかたの所持状況

人(%)

科・コース	全 体	男 性	女 性	服飾美術系	ス ポ ー ツ 科 学 系	養護保健系	経営情報系	総合教養系	初 等 教 育 学 科
持っている	269 (51.2)	6 (4.9)	263 (65.4)	37 (57.8)	39 (25.3)	56 (70.0)	27 (48.2)	25 (56.8)	85 (66.9)
持っていない	239 (45.5)	114 (92.7)	125 (31.1)	25 (39.1)	113 (73.4)	22 (27.5)	26 (46.4)	17 (38.6)	36 (28.3)
無回答	17 (3.2)	3 (2.4)	14 (3.5)	2 (3.1)	2 (1.3)	2 (2.5)	3 (5.4)	2 (4.5)	6 (4.7)
合計	525 (100.0)	123 (100.0)	402 (100.0)	64 (100.0)	154 (100.0)	80 (100.0)	56 (100.0)	44 (100.0)	127 (100.0)

表15 ゆかたの着用頻度

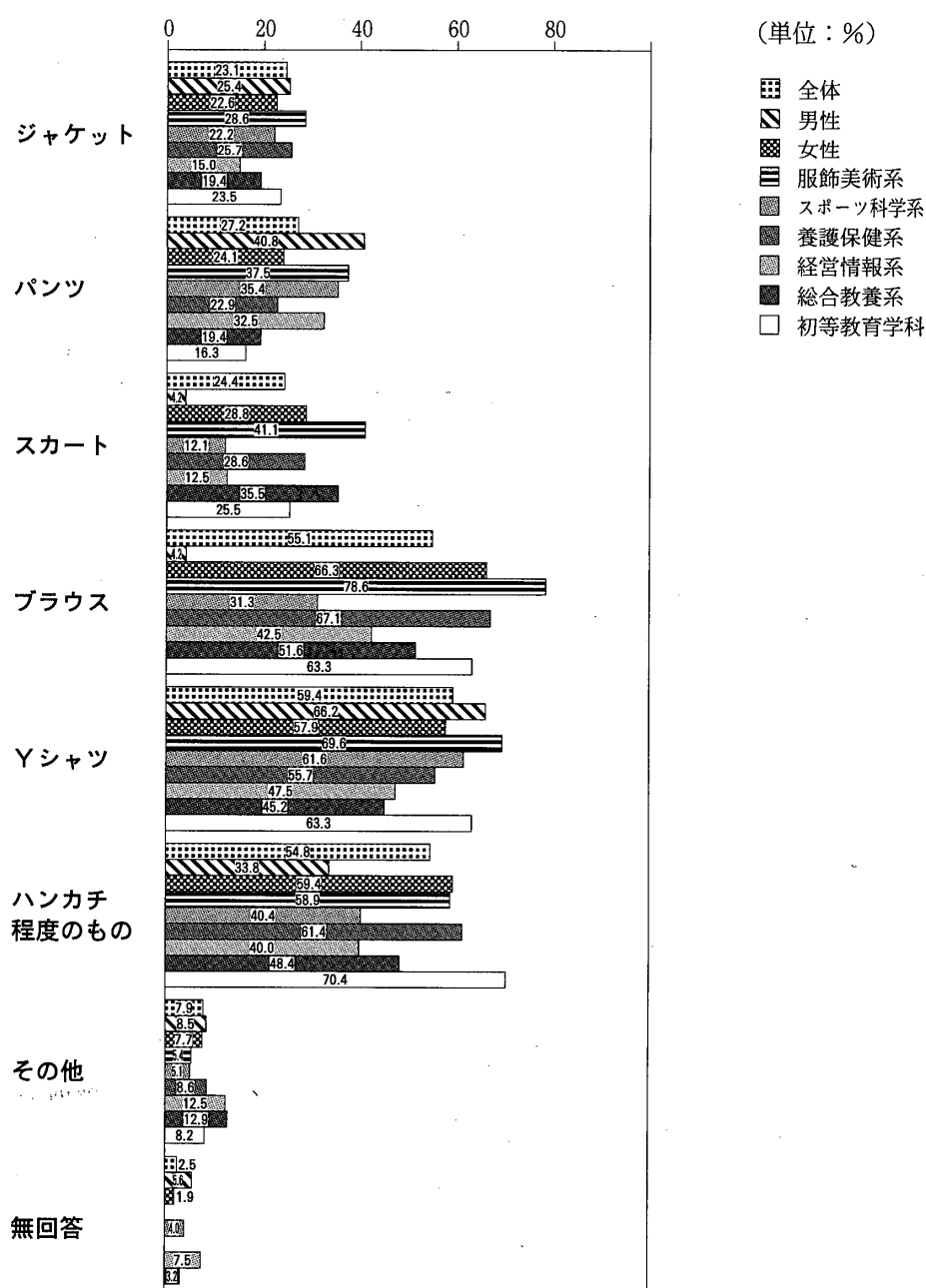
人(%)

科・コース	全 体	男 性	女 性	服飾美術系	ス ポ ー ツ 科 学 系	養護保健系	経営情報系	総合教養系	初 等 教 育 学 科
1～2回	209 (77.7)	4 (66.7)	205 (77.9)	29 (78.4)	26 (66.7)	42 (75.0)	22 (81.5)	17 (68.0)	73 (85.9)
3～5回	23 (8.6)	0 (0.0)	23 (8.7)	2 (5.4)	7 (17.9)	6 (10.7)	0 (0.0)	4 (16.0)	4 (4.7)
5回以上	1 (0.4)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
着ない	36 (13.4)	1 (16.7)	35 (13.3)	6 (16.2)	5 (12.8)	8 (14.3)	5 (18.5)	4 (16.0)	8 (9.4)
合計	269 (100.0)	6 (100.0)	263 (100.0)	37 (100.0)	39 (100.0)	56 (100.0)	27 (100.0)	25 (100.0)	85 (100.0)

7. 和服に対する関心度

浴衣について若者は、どの程度の関心があるか、「あなたは浴衣を持っていますか」(表14)の設問では、全体では「持っている」が65.4%、「持っていない」が31.1%であった。前回は「持っている」が55.9%、「持っていない」が43.5%と10%以上の所持者が増えている。「持っている」と答えた者は、「年間どのくらい着ますか」(表15)の設問で、「1～2回」が77.9%を占め、「着ない」と答えた者が13.3%であり、前回は一番多い回数を「1～2回」としたものが67.6%、「着ない」と答えた者が26.9%と所持率に比例して、着用回数も増え、和服に対

図13 アイロン掛けの内容



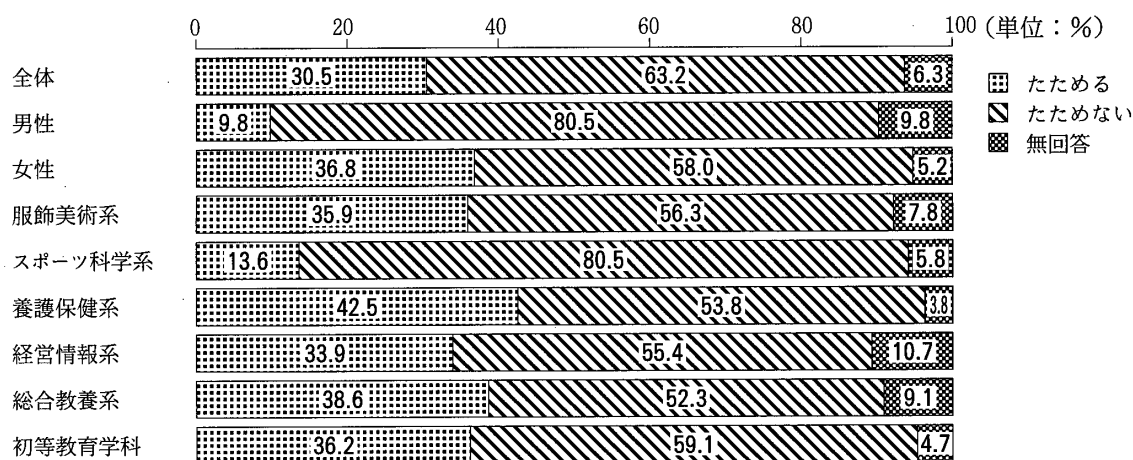
しての関心度の高さが伺えた。関連事項として「あなたは浴衣を着る場合、着付けはどのようにしていますか」の設問（表16）では、「親に着せてもらう」65.8%、「自分で着る」が20.2%に対して、前回は、「親に着せてもらう」が62.3%、「自分で着る」が26%であった。「その他」の項目では「祖母に着せてもらう」「帯を結ぶのだけ手伝ってもらう」となっている。「あなたは浴衣をたためますか」（図14）の設問では、「たためない」が58%、「たためる」が36.8%に対して、前回は「たためない」が55%、「たためる」が43.2%であった。以上のことから、前回よりも和服に対する関心は高くなってきているものの着物をたたむことや自分で着ることは低い数値になっている。

表16 ゆかたの着付け状況

人(%)

項目	科・コース	全 体	男 性	女 性	服飾美術系	スポーツ 科学系	養護保健系	経営情報系	総合教養系	初等教育 学科
自分で着る		50 (21.5)	4 (80.0)	46 (20.2)	9 (29.0)	7 (20.6)	10 (20.8)	4 (18.2)	5 (23.8)	15 (19.5)
親に着せてもらう		152 (65.2)	0 (0.0)	150 (65.8)	17 (54.8)	22 (64.7)	32 (66.7)	15 (68.2)	15 (71.4)	49 (63.6)
知人に着せてもらう		25 (10.7)	0 (0.0)	25 (11.0)	4 (12.9)	2 (5.9)	6 (12.5)	3 (13.6)	1 (4.8)	9 (11.7)
その他		8 (3.4)	1 (20.0)	7 (3.1)	1 (3.2)	3 (8.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (5.2)
全体		233 (100.0)	5 (100.0)	228 (100.0)	31 (100.0)	34 (100.0)	48 (100.0)	22 (100.0)	21 (100.0)	77 (100.0)

図14 ゆかたの始末（たたみ方）



IV ま と め

以上、本学2003年（平成15年）4月入学者525名を対象にした「衣」に対する25項目の内容を10年前と比較検討した結果をまとめると次のようになる。

1. 衣服の経費関係について

1ヶ月に被服にあてる金額としては「5,000円～10,000円」が50%前後で前回とほぼ同様で「5,000円」が服飾を除いて前回は20%未満だったが今回のほうが20%～30%間で若干高くなっている。それは既製品が種類も豊富で価格も安く提供されていると考える。

2. 衣服費の支出について

今回は、全体で「親が出す」が33.1%だったものに対して今回は21.3%と低く、逆に「小遣いから出す」が5.3%高く「アルバイトの収入から出す」が6.5%高くなっているが、今年度の学生は、殆どが何らかのアルバイトに従事していて自分の収入から衣服を購入している傾向が伺える。そのことは、現代の経済状態が影響していることが推察される。

3. 衣服計画について

衣服に充てる予算の計画は、服飾の数値が高いことから女子の方が「衣」に対しての興味・関心があると伺える。

4. 衣服の購入時と選択については、衣服の購入時期は好きな服を見つけた時であり、その服の選択基準は好きなデザインだからということで、自分の好みが優先されている。

5. 衣服の満足度と廃棄については、各自の洋服の所持数の満足度は、これで良いと決められる所持数には個人差があって判断しづらいものである。

6. 衣服の関心度をみると、手作りの服をきた経験のある者は、前回と比較すると20%以上も減少しているものの半数以上いた。豊富なデザインで安価に衣服が入手できる時代においても「手作りの服」は製作の楽しみや、子供に着せる喜びなどを感じさせる。

7. 自分で洋服を製作することについては、全体的に「できない」が圧倒的に多かったが、服飾においては「製作すること」についての関心度が高い。他科、他系ではその傾向が低い。

8. 衣服の着装形態については、安価で色彩のバリエーションも豊富な伸縮性のあるニットや軽く保温性や吸汗性に優れているフリースなどを好んで着用している傾向が見られた。ジーンズは、手の込んだ立体裁断のものや刺繍やパッチワークを施したり鉤を打ったりして見た目のおもしろさを強調したものなどが、若者にとって自分の着こなしを楽しむオシャレ着として広く愛用されている。

下着の着装では、シャツ、スリッパの代わりにTシャツを着用し、ガードルの代わりにキャミソールを着用している傾向が見受けられた。「ガードル」「ボディースーツ」とともに着用率が低いのは、締めつけることの不快感や身体の動きを妨げないで、リラックスできる装いが好まれているものと思われる。

ナイトウェアにおいても、軽くてソフトでなめらかな動きやすい伸縮性のあるパンツスタイルが好まれていると思われる。

洋服を着るときの決定要因については、男子学生よりも女子学生の方が、ファッションに対して興味・関心があり、出かける場所によって決めるなどT・P・Oを考慮していることが伺われた。

9. 衣服の管理については、男子学生が増えたことも上げられるが、「気が向いたとき」「しない」と答えた者が全体の5割を占めている。

洗濯時期について、「小学生・中学生から」が全体の4割弱と低いことや2割以上のものが自分では洗濯をしないと答えている。また、今回は「衣類のほつれやボタンつけ」、「アイロン

がけ」は、「小学生高学年から」「中学生から」が8割以上いたが、今回は6割弱であり2割以上は「しない」と答えている。この結果から中学校、高等学校の家庭分野において、衣服を作る時間は必ずしも多くはなく、ものづくりに対しての興味・関心が少なくなっていることも影響していると思われ、家族に依存しているものが増えていることが伺える。

10. 和服に対する関心度は、7割弱が持っていると答え前回よりも1割以上の所持者が増えている。所持率に比例して、年間の着用回数も増え1～2回が8割弱を占め、和服に対する関心度の高さは伺えたが、着物をたたむことや自分で着ることは低い数値になっている。

「衣」は、生活環境や社会情勢に深く関わっている。今回の調査を通し、10年間の衣服環境の変化を感じとることができた。今後も若者の衣生活に関して調査を継続していきたいと思う。

参 考 文 献

- 1) 岩崎芳枝：被服の着装と管理，文章堂印刷株式会社，1989
- 2) 荘村多加志：家政学概論，中央法規出版株式会社，1991
- 3) 平野公子，八巻美恵：モノ誕生「いまの生活」，株式会社晶文社，1990
- 4) 荻村一美：生活と科学，ニホン・ミック，1992
- 5) 川崎秀昭：ファッションカラーNo.47，日本色研事業株式会社，1992
- 6) 北海道女子短期大学研究紀要，第17号，1983
- 7) 日本家政学会誌，Vol.44，No.7，日本家政学会，1993
- 8) 北海道女子短期大学研究紀要，第28号，1993